

令和7年度 自己点検評価報告書

令和8年3月31日

学校法人仁多学園 島根リハビリテーション学院

1. 学院の教育目標等

【基本理念】 教育基本法 の精神及び学校教育法第124条の趣旨に則り、国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探究心に富む人材の養成と理学療法学及び作業療法学の向上を目的として教育及び研究を行うとともに、その成果をもって地域社会の発展に寄与し、人類の福祉に貢献することを基本理念とする。 【教育目標】 生命の尊厳を柱として広い教養と高い倫理観を身に付け、科学的な探究心を養い、時代の要請に応じうる理学療法士、作業療法士を養成することを目指している。 【設立の理念】 奥出雲の玉鋼は、「たたら」製鉄法により、燃えさかる炎の中で叩きあげられ磨きぬかれた、強靱な心と卓越した技の結晶である。 この豊かな潤いのある自然の中で培われ育まれた技のように、優れた医学的知識と医療技術を身につけて、障害の改善と自立を目指す人々を、力強く支え共に生きる、優しい心を持った医療人が、ここ島根リハビリテーション学院から巣立つことを期待する。
--

2. 本年度重点目標

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

重点目標	自己評価	達成計画	達成状況（特記事項）
1. 両学科における資格取得率100%の達成	4	1 e-Learningで使用する映像教材の作成継続	理学療法学科では、消化吸収嚥下、呼吸、代謝、循環、小児、ADLの6分野について、到達度毎に5分程度でまとめた講義動画の作成を計画し、動画作成を遂行できた。加えて、計画外であったが、がんりハの分野について、動画を作成することができた。 作業療法学科では、専門分野について映像教材を2領域以外（概論、地域）は新規に作成した。また、講義のみならず資料に合わせた問題の解き方の解説も動画として作成し、自己学習がしやすいように工夫を行った。
2. 教員の質の向上	4	2 学位取得の推進 PT：博士課程進学1名 新任教員に対するFD研修会の開催	理学療法学科では新たに1名の教員の修士課程進学を目標とし、達成された。 以下のFD研修会を開催し、新任教員の教授能力の向上を図ることができた。 ・4月 国試対策の仕組みと進め方の概要 OT学科 ・5月 キャリア形成支援モデルとそれに係る担任意務 OT学科 ・12月 再試験のあり方と学習支援モデル 両学科
3. カリキュラムの魅力化	3	3 理学療法学科 ・令和8年度新カリキュラム編成の準備 ・ICT・AIを利用した未来の理学療法科目の開設 ・在宅医療分野の理学療法科目の質の向上 作業療法学科 ・令和9年度新カリキュラム編成の準備 ・地域作業療法分野の魅力化 ・小児作業療法分野の魅力化	理学療法学科では、在宅医療分野で輝く理学療法士の育成を目的に、「支える医療」をキーワードにし、地域理学療法論、地域理学療法演習、地域理学療法実習の3科目の修正を行った。到達度や連携先を見直し、教育の質の向上を図ることができた。また、ICT・AIを利用した未来の理学療法科目の基礎設計を行い、令和8年度のカリキュラム申請、令和9年度からの新カリキュラム開講準備が整った（外部講師確保済）。 作業療法学科では、「支える医療」をキーワードにし、また、幼保連携型認定こども園よこたこども園との連携を見据えた、地域作業療法分野と小児作業療法分野の科目群の到達度の洗い出しを行った。令和9年度の新カリキュラム開講は難しく、令和11年度の開講の予定に修正した。
4. キャリア教育の充実を通じた休退学率の低減	4	4 本学のキャリア教育モデルの作成と共有 キャリア形成を目的とした科目群の質の向上	近年の休退学の原因の多くは学習に対する不適応が多くを占める。もともと学習が苦手な学生でも、目的意識を持っているものの多くは不適応を起こさない。そのため、令和7年度は、1年次、2年次のキャリア教育科目、概論の内容を大きく修正し、学習目的の明確化を図り、一定の効果を得ることができた。

5. 学生募集を強化し、両学科の定員を充足する	3	学院の認知度の向上 ・テレビCMの増加 ・ダイレクトメールの増加 ・高校訪問件数の増加 ・小学生を対象とした夏休み自由研究支援イベントの実施 5-1) 本学の魅力の各広報媒体への適切な反映 ・ダイレクトメールの内容改善 ・高校訪問説明資料の内容改善 ・ホームページの内容改善 5-2) 高校生との接触機会の増加 ・高校への出前授業の実施 ・高校生を対象にした最新のトレーニングイベントの開催 5-3) 人材育成の強化 ・ガイダンス・オープンキャンパスを通じたOn the Job trainingでの指導体制の整備(教務・渉外) ・高校訪問を通じたOn the Job trainingでの指導体制の整備(渉外) 5-4)	テレビCMについては3か月程度のスポット放映だったが1年間継続して放映した。 ダイレクトメールは時期、対象を見直し他のイベントと連動させて効果的に実施した。高校訪問は時期、内容、対象校の見直しを行い継続的に訪問することで認知向上を図った結果、訪問件数の増加と高校教員との関係性の構築に繋がった。小学生対象のイベントではなく三刀屋高校との連携授業を実施した。 本学の魅力を再整理し、コンセプトを設定。 3つの各広報媒体に対してコンセプトを反映させた内容の改善を行った。 高校訪問の回数増加による高校教員との関係性構築により出前授業の実施回数を増加させた。トレーニングイベントに関しては今年度は開催を見送った。 三刀屋高校にて連携授業を行った。 スタッフに指導者が同行し、現場での指導やフィードバック等を通して、育成スピードの向上を図った。来年度も引き続き行っていく。
-------------------------	---	--	---

3. 評価項目の達成及び取組状況

1 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和7年度の特記事項
1. 教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	「基本理念」、「教育目標」、「設立の理念」や専門分野の特性を明確にした育成人材像を定めている。	社会的ニーズの変化に対応するため、様々なメディアを通して医療・保健・福祉の情報を収集することで、理念、目的、育成人材像を継続的に検討し、教育に反映していく。	
	② 学校における職業教育の特色は何か	4	「地域社会に貢献をする力」、「人とのコミュニケーション能力と協調性」、「自然環境や地域文化の豊かさに育まれた人間性と倫理観」を備えたセラピストの育成。	時代と社会の変化に即応した学校運営やカリキュラムの構築。 行政や関係業界と連携した幅広い課題解決型授業（アクティブラーニング）の展開。 指導の個別化、学習の個性化に取り組む。	
	③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	「治すリハビリ 支えるリハビリ」をコンセプトに、高齢化率40%超の立地自治体をフィールドとして、「地域との交流を図り、コミュニケーション能力の向上と、人との協調を大切にすることに取り組んでいる」。	チーム医療演習等の授業科目、サークル活動等の課外活動を通じた地域との交流の促進。	
	④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	将来構想とともに学院案内・学生便覧、学院ホームページ等に明記し、学生・保護者・関連業界等に周知している。	引き続き、周知に努める。	学院案内、ホームページをリニューアルした。
	⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	各学科の教育目標、育成人材像は、近隣関連業界から委員として参加して頂いている教育課程編成委員会の意見を参考にし、教務会議にて検討後、スタッフ会議（全体会議）で決定している。	引き続き、施設・病院のみならず、異なった分野から教育課程編成委員として加わって頂き、幅広く地域情報を聴取し、地域に特化したカリキュラムの充実を図って行く。	
2. 学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	理事会・評議員会で審議・決定された運営方針・事業計画に基づき、学院運営会議や各委員会等において具体的な施策を検討・実施するとともに、その成果を理事会・評議員会で報告している。	学院運営会議を中心に、中長期的な視点で学院運営の改善を図るとともに、外部識者で構成する学校関係者評価委員会等の審議・評価を受ける体制を維持していく。	
	② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	毎年度の予算と事業計画等については、学院運営会議やスタッフ会議等を経た後、理事会・評議員会での審議を経て策定している。	将来的課題に対処するため、運営方針の継続的な検証と見直しを行っていく。	
	③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	寄附行為、学則、処務規程、役職規則、各委員会規則等において明確化しており、有効に機能している。	体制整備、ガバナンスの構築について、継続的な検証と見直しを行っていく。	
	④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	就業規則、給与規程等を整備している。	法令改正等に適宜対応していく。	
	⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各種委員会規程や処務規程、経理規程等に基づき、意思決定を行っている。	継続的な検証と見直しを行っていく。	
	⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員等が行う研究等の倫理的妥当性を担保するため、倫理審査委員会規則を整備・運用している。	継続的な検証と見直しを行っていく。	
	⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	各種情報については、学院案内、ホームページ、SNSで公開・発信している。	最新の教育情報を積極的に公開していく。	
	⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学生名簿、学生カルテ、成績情報の各システムや、リモート授業・会議も可能なシステムを構築している。事務系処理はグループウェアによる情報管理や、財務・給与等のアプリケーションソフトを導入している。	各システムの運用状況の検証と改善・機能追加に適宜対応していく。 学生ポータルや履修登録等について、新たなシステムの開発を検討していく。	

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和7年度の特記事項
3. 教育活動	① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	養成施設指導要領・指定規則、本学院の教育理念に則り策定されたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、カリキュラム編成基本方針によって定められている。	教育課程編成委員や学校関係者評価委員会等の外部意見を参考に、教務会議にてディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、教育課程の改善を継続して行っていく必要がある。	
	② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	学校関係者評価等にて業界ニーズを捉えつつ、ディプロマポリシーで教育到達目標、学生便覧で授業到達度が明示されている。学習時間は教育課程表にて明示している。	学校関係者評価等で業界のニーズを捉え、到達目標についても適時見直しを行っていく。	
	③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	両学科ともに資格取得に必要な知識および技術の習得に向けたカリキュラムが体系的に編成されている。	本学の特徴である中山間地域という地域性を活かした魅力あるカリキュラムの編成を検討していく。	
	④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4年間を通じ体系的なカリキュラムを整備している。キャリア教育や臨床実習等を通じ、就職先との連携を強化している。	両学科ともに新任教員が多く、キャリア教育についてのFD研修会を行っていく。 キャリア教育や臨床実習等を通して、さらに外部連携を進めていく。	
	⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	島根県理学療法士会や近隣の医療保健福祉の中核施設から委員を任用し、教育課程編成委員会にて業界等のニーズを把握し、カリキュラムの改善に努めている。 また、近隣の関係団体と連携し、地域資源を利用したカリキュラム開発を行ってきた。	現在の関係性を活かしたカリキュラムの見直しを継続して行う。	
	⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	2年次から4年次にかけて臨床実習Ⅰ～Ⅳを体系的に設置している。実習施設に関しては領域に偏りがあることが課題である。また、臨床実習科目では学ぶことのできない在宅医療現場の経験を積むため、インターンシップの体制を整備している。	作業療法学科において、実習施設数の偏りを改善するため、確保数が少ない精神、発達分野の実習施設の確保に努める。	
	⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	学生による授業評価を実施し、結果を担当教員（専任教員・外部講師）にフィードバックすることで改善を行っている。	授業評価のフィードバック後に、新任教員が授業設計・手法を学ぶことができる仕組みをFD委員会で検討していく。	
	⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	職業教育に関して、リハビリテーション教育評価機構、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会での評価を取り入れている。	引き続き、外部からの評価を取り入れ、より良い職業教育を実施していく。	
	⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定の基準は、学則に定めており、学生便覧にて学生に示している。進級・卒業判定に関しても、学則に明確に示している。	学生に対し、学生便覧にて成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準の周知に努める。	
	⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4年間を通じた体系的な国試対策カリキュラムを作成している。	新任教員に対する指導の継続とe-learningによる指導体制の整備を図る。	
	⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	理学療法学科、作業療法学科とも、5名の教員を確保し、その全ては要件を満たしている。1名の欠員は、次年度確保できる見込みである。	早急に欠員の補充を行う。	
	⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	各分野において先駆的に活動されている専門職を外部講師として確保し、教育目標の共有を含めマネジメントを行っている。	現状の継続を行う	

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和7年度の特記事項
	⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	大学院への進学や研究活動を通して教員の専門分野について研鑽を積んでいる。また、学科ごとに、年次研修計画を立案し、教員の研修研究活動を促進している。	現状の継続を行う	
	⑭ 教員の能力開発のための研修等が行われているか	2	学科ごとや両学科共通のFD研修会を行い、教授能力の向上に努めている。 組織の課題を改めて整理し、中期にわたるFD研修会の計画を立案する予定であったが、できていない。	中期計画を作成し、それに基づきFD研修会を実施していく。	
4. 学修成果	① 就職率の向上が図られているか	4	令和7年度の就職率は両学科ともに100%であり、就職満足度は97.8%であった。早期に就職活動が行えるよう3年生後期より就職セミナーを開催し、担任を中心に支援を行っている。また、求人施設より学生・教員向けの来校型説明会を開催している。加えて、長期休暇での施設見学、インターンシップ制度を設け、学生の就職に対する意識を高め、就職先の拡大を図っている。	長期休暇を利用した施設見学、インターンシップ制度の目的や動機付けを早期より図り、キャリア意識の醸成を図る。	
	② 資格取得率の向上が図られているか	4	令和7年度の国家資格取得率は、両学科ともに100%であった。4年間を通じた体系的な国家試験対策企画を立案し実施している。また、担当教員がクラスマネジメント、個別マネジメントにより時間を割けるようにしていくため、講義のe-learning化を進めてきた。 しかし、e-learning化出来ない科目が未だ多く、今後の課題といえる。	今後も講義のe-learningを発展させ、指導の質向上や体制整備を図る。	
	③ 退学率の低減が図られているか	4	令和7年度の中途退学率は7.2%であった。担任は定期的な面談を行い、支援が必要な学生を把握し学習支援や生活相談を行っている。また、サークル活動等で学年を超えた繋がりを強化している。学生相談室を設置し専任カウンセラーを配置している。	担任や学科全体で、学生の学習面における問題点を早期に発見できる評価能力や、支援能力の向上を図るために、FD研修や先輩教員による新任教員へのOJTを実施する。	
	④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	在校生の社会的な活動は把握しSNS等で発信している。評価については他学生にも発信し、成果を認める風土を作っている。卒業生に対する把握は不十分である。	卒業生の社会的な活動および評価の把握方法については卒業生会（雪桜会）を利用する検討も必要である。	
	⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	卒業後、3年に一回就職先へアンケート調査を行い、キャリア形成への効果を把握している。調査結果から、カリキュラムの改善を図っている。	継続的な検証と教育活動の見直しを行っていく。	
	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	1年時から体系立てたカリキュラムにて進路・就職について考える機会と支援を行っている。就職活動が本格する3・4年生では担任を中心に支援を行っている。新任教員も在籍しており支援能力に差異が見られる。	新任教員については、個別対応が増える3・4年生の担任までに先輩教員とともに学生支援に入ること、学生面談のタイミングや支援内容について仕組みを共有して行う。	
	② 学生相談に関する体制は整備されているか	4	心理カウンセラーによる学生相談室を月2回実施し、学内掲示等で周知を図っている。その他各教員が随時相談を受け付け対応をしている。	課題等があれば、学科や教務全体で把握し、対応を検討していく。各教員、特に新任教員を中心に支援能力の向上を図る為のOJTで実施する。	
	③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	高等教育の修学支援新制度の対象校として認定を受けている。また、学院独自の特別奨学生制度の新設、学費減免や運転免許取得費等の支援を行っている。立地自治体による学生宿舍の家賃補助等の支援も行われている。	引き続き学院独自の経済的な支援体制のあり方を検討していく。	令和9年度入試に向けて引き続き、特別奨学生制度を継続する。内容は昨年度のもので高校側から要望のあった一般入試との併願を可能とすることや出願に必要な得点の改変を行う予定である。
	④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年度毎に学校保健計画を定め、全学生の健康診断を実施している。また流行性疾患に関する感染予防策の周知や罹患学生のスタッフ間での情報共有及び対処を行う体制を整備している。	現状の継続を行う	

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和7年度の特記事項
5. 学生支援	⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	各サークルに対し年度更新時に活動報告書と次年度計画書を提出させ学生委員会で実績把握をしている。その他、学生自治会に活動補助金を支援している。大会への引率に関しては、学生委員会で協議し、必要に応じて教員を引率させている。新入生に向けたサークル広報支援も行っている。	現状の継続を行う	
	⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生住宅等の生活環境支援について、自治体の協力を得て入居を希望する学生全員分の学生用宿舎を確保している。学生用宿舎の管理は自治体が行い、生活指導は、宿舎担当教員を配置して、担任と連携して支援する体制を整えている。管理に関しても、自治体と連携し状況を把握できる体制を整えている。	現状の継続しつつ必要に応じて連携方法の検討を行う。	
	⑦ 保護者と適切に連携しているか	4	間接的な情報はホームページ掲載等で公表・周知をしている。直接的には年に1回定期面談を実施し、また学生に問題等があれば、電話連絡、面談を行っている。情報に関しては、学生記録簿に記録し保存している。	現状の継続しつつ必要に応じて連携方法の検討を行う。	
	⑧ 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生支援担当教員を配置し、同窓会組織の活動をサポートする中で活動状況を把握している。卒業生からの再就職等の相談は学科で共有し、適宜対応している。作業療法学科では、リカレント教育を、年に1回、オンラインで開催している。	担当教員を中心に同窓会組織の活動状況を把握し必要に応じた支援を行う。	
	⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2	社会人経験者が入学を希望した場合は、単位認定会議を経て単位認定を行う体制を整備している。	現状の継続を行う。	
	⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	希望聴取を行い高校への出前教室やガイダンス、来校による職業・学校案内を行っている。	現状の継続しつつ必要に応じて内容の検討を行う。	
6. 教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	施設・設備は指定規則、設置基準等に基づき、学生数と教育上の必要性に十分対応できる施設と設備を有している。	開学から25年以上が経過し、施設設備の老朽化が進みつつある。良好な教育環境を維持していくため、中期的な更新計画を策定し、計画的に施設・設備の更新を進めていく。	2027年の蛍光灯製造中止に対応するため、本館棟全館のLED化工事を実施した。
	② 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3	2年次から4年次にかけて臨床実習Ⅰ～Ⅳを体系的に設置している。実習地に関して領域が偏っていることが課題である。また、臨床実習科目では学ぶことのできない在宅医療現場の経験を積むための、インターンシップの体制を整備している。	作業療法学科において、領域の偏りを改善するため確保数が少ない精神、発達分野の実習施設確保に努める。	
	③ 防災に対する体制は整備されているか	3	本学院独自の防災マニュアルを作成している。 また、学生及び教職員が参加する火災避難訓練を毎年実施している。	学生宿舎（公社若者定住住宅／管理者：奥出雲町）での災害を想定した防災訓練の実施を検討。	R7.10.20学院において火災避難訓練及び消火器・屋内消火栓を使用した消火訓練を実施した。併せて「災害時対応マニュアル」「学生団地別指定避難所」の配布・説明を行った。
7. 学生の	① 学生募集活動は、適正に行われているか	3	教職協働により、高校訪問や進路ガイダンスへの積極的な参加、オープンキャンパス、公開講座等の実施により、直接情報提供するほか、学院HPやTVCM、SNS、学院案内等の多様な媒体を通じて情報発信を行っている。	引き続き、学院コンセプト（治し・支えるリハビリ）を学ぶことができるカリキュラム、リアルな体験の場が豊富、個性性を大切にしたいオーダーメイド教育、国試合格率が毎年度安定して高い、希望就職に強い）をガイダンスやオープンキャンパスなどで直接伝える。また、HPやSNSでも積極的に発信していく。	コンセプトを見直し変更した。
	② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	国家資格の取得率や就職満足度の高さ、退学率の低さ等について数値で情報提供をしている。また、取得可能な資格や卒業後の進路等についても情報提供をしている。	引き続き、学院案内やHPでの国試結果についての情報公開を行う。また、高校訪問などにおいて国試・就職の結果を資料を用いて説明していく。	

↓ 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和7年度の特記事項
受入れ募集	③ 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	入学試験委員会規程に基づき、入試委員会で定めた入学選考方法、合否判定基準に基づき選考を行っている。 多様な学生を受け入れるため、総合型選抜入試、推薦入試、一般入試を実施するとともに、受験機会を確保するため、松江市、三次市にも試験会場を設けている。 また、総合型選抜入試合格者への学習指導と個々の学習能力の評価を目的として入学前教育を実施している。	各選抜方法の検証と改善を継続的に検討・実施している。	新たに特別奨学生推薦入試を設け、成績優秀者に対して学納金を減免(年額60万円)する入試区分を設定した。同一年度内における再受験者に対して、入学検定料(3万円)の免除制度を設けた。
	④ 学納金は妥当なものとなっているか	4	学納金は、学院の運営経費をベースに、中国地区同種専門学校との均衡も考慮し、設定している。 入学時の経済的な負担を軽減するため、入学金は設定していない。	さまざまな経費の高騰が続く中で、学納金の額について、継続的に検討していく。	引き続き、適正な学納金について検討を行った。
8. 財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	現時点では、財務基盤はまだ安定していると考えが、財務基盤の安定を維持するためには、学生の確保が最重要課題である。	学生確保に向けては、広報関係の予算を増やし、学院の認知度向上に取り組むとともに、教員・渉外課職員による高校でのガイダンスの実施やオープンキャンパスへの誘導等さまざまな取組を行っている。	R7年度の基本金組入前収支差額は、約35,000千円のマイナスだった。
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	学院運営会議で次年度の予算編成と施設設備の更新整備計画を協議し、予算編成方針に沿った事業への優先配分を行うとともに、スタッフ会議(職員全員参加)において情報共有を図っている。	学生募集の強化に合わせ、支出についても削減できる部分は極力削減し、収支改善を図っていく。	令和8年度予算編成に向けて、支出について、教職員の協力を得て、削減できる部分を洗い出し、予算に反映させている。
	③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	毎年度の決算にあわせ、監事による監査が実施されており、監査結果は理事会・評議員会において報告されている。また、経理処理については、随時、顧問税理士による指導・助言を受けている。	引き続き適正な会計処理に努めていく。	
	④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務情報公開規程を整備し、それに基づき適切に対応している(ホームページ上でも公開している)。	引き続き適切な財務情報の公開を行っている。	
9. 法令等の順守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	私立学校法、専修学校設置基準、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等の関係法令を遵守するとともに、ハラスメントの防止、個人情報の保護、学校評価等に関する規程を整備し、適切に対応している。	関係法令、設置基準及び各種規程等に基づき、適切な学院運営を継続していく。	
	② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	個人情報の保護等に関する規則を整備し、それに基づき、適切に対応している。	関係法令、規則に基づき、適切に対応していく。	
	③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	毎年度、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会での意見聴取も経て、問題点の改善に取り組んでいる。	今後も継続していく。	
	④ 自己評価結果を公開しているか	4	学院評価実施規程に基づき、ホームページ上で公開している。	今後も継続していく。	
10. 社会貢献・地域	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地域連携型の授業や課外活動を整備し実施している。 また、行政や企業と連携し、調査研究等を行い貢献に役立てている。学院施設・設備・備品は、地元地域、企業等に開放している。高等学校には進路ガイダンスに教員を派遣している。加えて、高等学校のキャリア教育の一環として本校への来校を推奨している。	現在の継続を行う	
	② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	学生委員会が窓口になり、ボランティアの依頼を受け入れ、学生に周知することでボランティア活動を促進している。活動実績は学生委員会で報告され、実績は記録保管されスタッフ会議で全体共有を行っている。	現状の継続を行う	

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己 評価	現状と課題	今後の改善方策	令和7年度の特記事項
貢献	③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	出雲を会場に「支える医療」について一般公開講座を開講した。また、奥出雲を中心に介護予防教室への定期的参加や、小学生の職業体験を行うなど地域からの要望に可能な限り対応できるよう努めている。	現状の継続を行う	